



クライアント

- AllowUserSelectChatsFileDirectory (3 ページ)
- AutoAcceptFileTransfer (3 ページ)
- AutoAcceptImage (4 ページ)
- AutoAnswerForGuidedAccess (4 ページ)
- AutosaveChatsLocation (4 ページ)
- CachePasswordMobile (5 ページ)
- CacheSessionCookieInDevice (5 ページ)
- Call_Center_Audio_Enhance_Mode (5 ページ)
- ChatAlert (5 ページ)
- ChatTelephonyEscalationLimit (6 ページ)
- ContactCardonHover (6 ページ)
- DefaultActionOfContactList (6 ページ)
- Disable_IM_History (7 ページ)
- DisableAllMeetingReminder (8 ページ)
- DisableAudioDucking (8 ページ)
- DisableCallHistoryResolution (8 ページ)
- DisableLocusCMR (8 ページ)
- DisableNonAcceptMeetingReminder (9 ページ)
- DisableRemoteDesktopControl (9 ページ)
- DisableStartOnlineForOfflineMeeting (9 ページ)
- DisplayScreenshotWhenSwitchApps (10 ページ)
- EMMType (10 ページ)
- EnableAutosave (10 ページ)
- EnableConvertNumberToURI (11 ページ)
- EnableFecc (11 ページ)
- EnableFTE (12 ページ)
- EnableInlineImages (12 ページ)
- EnablePrt (12 ページ)
- EnablePrtEncryption (13 ページ)

- [EnableReminderForNoneWebExMeeting](#) (13 ページ)
- [EnableSaveLogsToLocal](#) (13 ページ)
- [EnableSingleNumberReach](#) (14 ページ)
- [EnableVDIFallback](#) (14 ページ)
- [EnableVDIFullScan](#) (14 ページ)
- [ForceLogoutTimerDesktop](#) (15 ページ)
- [ForceLogoutTimerMobile](#) (15 ページ)
- [Forgot_Password_URL](#) (15 ページ)
- [GlobalPhoneServiceErrorOnMobile](#) (15 ページ)
- [HideCallControlStrip](#) (16 ページ)
- [IP_Mode](#) (16 ページ)
- [J2JMaxBandwidthKbps](#) (16 ページ)
- [jabber-plugin-config](#) (17 ページ)
- [JabberHelpLink](#) (17 ページ)
- [JawsSounds](#) (17 ページ)
- [MakeUsernameReadOnly](#) (18 ページ)
- [MaxNumberOfBookmarks](#) (18 ページ)
- [Mention_GroupChat](#) (18 ページ)
- [Mention_P2Pchat](#) (19 ページ)
- [Mention_PersistentChat](#) (19 ページ)
- [MyJabberFilesLocation](#) (19 ページ)
- [pChatMeeting](#) (20 ページ)
- [ChatShare](#) (20 ページ)
- [Persistent_Chat_Enabled](#) (20 ページ)
- [Persistent_Chat_Mobile_Enabled](#) (21 ページ)
- [PersistentChatTelephonyEnabled](#) (21 ページ)
- [PersistIMNotifications](#) (21 ページ)
- [PrtCertificateName](#) (22 ページ)
- [PRTCertificateUrl](#) (22 ページ)
- [PrtLogServerURL](#) (22 ページ)
- [ResetOnLogOutOnMobile](#) (22 ページ)
- [RestoreChatOnLogin](#) (23 ページ)
- [SaveLogToLocal](#) (23 ページ)
- [ScreenReaderShowErrors](#) (24 ページ)
- [ShowCallAlerts](#) (24 ページ)
- [ShowIconWhenMobile](#) (24 ページ)
- [ShowRecentsTab](#) (25 ページ)
- [SingleLinePhoneLabel](#) (25 ページ)
- [spell_check_enabled](#) (26 ページ)
- [spell_check_language](#) (26 ページ)
- [StartCallsWithVideoOverCellular](#) (26 ページ)

- [STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED](#) (27 ページ)
- [SwapDisplayNameOrder](#) (27 ページ)
- [SystemIdleDuringCalls](#) (28 ページ)
- [TelephonyOnlyDiscovery](#) (28 ページ)
- [UnreadMessageDeleteAlert](#) (28 ページ)
- [UpdateURL](#) (29 ページ)
- [LdapAnonymousBinding](#) (29 ページ)
- [UseSystemLanguage](#) (30 ページ)
- [UXModel](#) (30 ページ)

AllowUserSelectChatsFileDirectory

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが MyJabberChats および MyJabberFiles フォルダのディレクトリを変更できるかどうかを決定します。

- **true** (デフォルト) : ユーザーは、[オプション (Options)] ダイアログの [チャット (Options)] タブにある [フォルダの変更 (Change Folder)] ボタンを使用して、MyJabberChats フォルダと MyJabberFiles フォルダのディレクトリを変更できます。
- **false** : ユーザーは MyJabberChats および MyJabberFiles フォルダのディレクトリを変更できません。[フォルダの変更 (Change Folder)] ボタンは、[オプション (Options)] ダイアログの [チャット (Chats)] タブに表示されません。MyJabberChats および MyJabberFiles フォルダのディレクトリは、AutosaveChatsLocation パラメータによって決まります。

このパラメータが設定されていない場合、動作は true の場合と同じです。

例 : `<AllowUserSelectChatsFileDirectory>true</AllowUserSelectChatsFileDirectory>`

AutoAcceptFileTransfer

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ファイル転送中にユーザーがファイルを自動的に受け入れるかどうかを指定します。このパラメータは画像には適用されません。画像については、AutoAcceptImage パラメータを使用して構成できます。

- **true** : IM で送信されると、ファイルのダウンロードが自動的に受け入れられます。
- **false** (デフォルト) : ファイルは自動的に受け入れられず、受信者はファイルの受信に手動で同意する必要があります。

例 : `<AutoAcceptFileTransfer>true</AutoAcceptFileTransfer>`

AutoAcceptImage

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが .jpg、.jpeg、.gif、.png 画像を自動的に受け入れるように設定します。

AutoAcceptFileTransfer パラメータ（デフォルトではオフ）は、画像ファイルには適用されないため、このパラメータには影響しません。

true（デフォルト）：画像はクライアントで自動的に受け入れられます。

false：画像は自動的に受け入れられず、標準のファイル転送が使用されます。

AutoAnswerForGuidedAccess

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

デバイスでガイド付きアクセスがアクティブな場合に、クライアントで [自動応答（Auto Answer）] オプションを使用できるかどうかを指定します。自動応答により、クライアントは着信 Jabber コールに音声とビデオで自動的に応答できます。

- true：ガイド付きアクセスがアクティブな場合、クライアント設定で自動応答を使用できます。
- false（デフォルト）：自動応答は使用できません。

AutosaveChatsLocation

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが会話を閉じるたびに自動的にインスタントメッセージとファイル転送が保存されるパスを定義します。ローカルファイルシステム上の絶対パスを使用します。チャットは MyJabberChats というフォルダに保存され、ファイルは MyJabberFiles というフォルダに保存されます。

AllowUserSelectChatsFileDirectory パラメータが false に設定されている場合、このパラメータは MyJabberFilesLocation パラメータと次のように連携します。

- AutosaveChatsLocation パラメータと MyJabberFilesLocation パラメータの両方に値がある場合、MyJabberFilesLocation 値が優先されます。
- MyJabberFilesLocation パラメータに値がない場合、AutosaveChatsLocation 値によって MyJabberChats フォルダおよび MyJabberFiles フォルダへのパスが決まります。
- AutosaveChatsLocation パラメータと MyJabberFilesLocation パラメータの両方に値がない場合、すべてのチャットとファイルは既定の場所（[ドキュメント（Documents）] フォルダ）に保存されます。

例 : <AutosaveChatsLocation>Local_Path</AutosaveChatsLocation>

CachePasswordMobile

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントがパスワードをキャッシュに保存するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : クライアントはユーザーパスワードをキャッシュに保存します。したがって、ユーザーはクライアントの起動時に自動的にサインインできます。
- **false** : クライアントはユーザーパスワードをキャッシュに保存できません。したがって、ユーザーはクライアントが起動するたびにパスワードを入力する必要があります。

例 : <CachePasswordMobile>true</CachePasswordMobile>

CacheSessionCookieInDevice

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber が Cookie を iOS キーチェーンにキャッシュするかどうかを指定します。iOS キーチェーンにキャッシュされた SSO Cookie により、アプリがバックグラウンドでの動作を停止した場合、ユーザーは Cisco Jabber に自動的にサインインできます。

- **true** (デフォルト) : Cookie は iOS キーチェーンにキャッシュされます。
- **false** : Cookie は iOS キーチェーンにキャッシュされません。

Call_Center_Audio_Enhance_Mode

メディアエンジンがコンタクトセンターのオーディオを再生する方法を調整します。コンタクトセンターの通話フローにエージェントのグリーティングまたはウィスパアナウンスメントが含まれている場合は、このパラメータを使用します。

- **true** : メディアエンジン (CPVE) でコールセンターのオーディオ拡張モードを有効にします。
- **false** (デフォルト) : メディアエンジン (CPVE) でコールセンターのオーディオ拡張モードを無効にします。

例 : <Call_Center_Audio_Enhance_Mode>true</Call_Center_Audio_Enhance_Mode>

ChatAlert

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

チャットアラートの既定のサウンドを指定します。ユーザーは、[オプション (Options)] ウィンドウの [サウンドとアラート (Sounds and Alerts)] タブでこの値を変更できます。

例：<ChatAlert>IMAlert_1</ChatAlert>

ChatTelephonyEscalationLimit

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

グループチャットと常設チャットでテレフォニーエスカレーションが有効になっている場合に許可される参加者の最大数を定義します。

デフォルト値は参加者25人です。参加者をゼロに設定すると、パラメータは無効になります。ただし、参加人数の上限はありません。

例：<ChatTelephonyEscalationLimit>10</ChatTelephonyEscalationLimit>

ContactCardonHover

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

[連絡先 (Contacts)] リストと検索結果で連絡先名にカーソルを合わせたときに連絡先カードを表示するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : ハブウィンドウまたは検索結果で連絡先にカーソルを合わせると、連絡先カードが表示されます。Windows 版 Jabber の場合、連絡先の名前の上で CTRL + I を押すと、連絡先カードが表示されます。
- false : [連絡先 (Contacts)] リストまたは検索結果の名前にカーソルを合わせても、連絡先カードは表示されません。

例：<ContactCardonHover>>false</ContactCardonHover>

DefaultActionOfContactList

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber ユーザーが連絡先リストまたは連絡先の検索結果から連絡先をタップしたときの動作を指定します。

- Chat (デフォルト) : クライアントは連絡先とのチャットセッションを開始します。
- Call : クライアントは連絡先との VoIP 通話を開始します。



(注) これらの値では大文字と小文字が区別されます。

DefaultActionOfContactList パラメータに指定された設定は、電話専用または IM 専用のアカウントを持つユーザーには適用されません。フルサービスが展開されているユーザーに対して **Call** オプションが構成されている場合、クライアントは電話サービスが利用できないときにモバイル通話を開始します。

例 : <DefaultActionOfContactList>Call</DefaultActionOfContactList>

Disable_IM_History

バージョン 11.8 以降のすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

参加者がログアウトした後、チャット履歴を保持するかどうかを指定します。クライアントは、参加者が Jabber をリセットするまでチャット履歴を保持します。

Disable_IM_History キーが **false** で、参加者がチャットウィンドウを再度開くと、クライアントは最新の 200 件のメッセージのみを表示します。



-
- (注) 常設チャットユーザーの場合は、**false** (デフォルト値) を使用する必要があります。Disable_IM_History パラメータを無効にすると、常設チャットルームの **@mention** 機能に影響します。
-



-
- (注) このパラメータは IM 限定展開には使用できません。
-

- **true** : 参加者がログアウトした後、クライアントはチャット履歴を保持しません。

Disable_IM_History パラメータが **true** の場合、これは次の設定よりも優先されます (クライアントは履歴を保存しません)。

- IM and Presence サーバーの [クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録の許可 (Allow clients to log instant message history)]。
- [Webex Messenger 組織管理 (Webex Messenger Org Admin)] > [ポリシーエディター (Policy editor)] > [ポリシー名 (Policy name)] > [ローカルアーカイブ (Local Archive)] オプション。
- **false** (デフォルト) : 参加者がログアウトした後、クライアントはチャット履歴を保持します。

チャット履歴を保持するには、IM and Presence サーバーの [クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録の許可 (Allow clients to log instant message history)] オプション、または Webex Messenger の [Webex Messenger 組織管理 (Webex Messenger Org Admin)] > [ポリシーエディター (Policy editor)] > [ポリシー名 (Policy name)] > [ローカルアーカイブ (Local Archive)] オプション。

例 : <Disable_IM_History>true</Disable_IM_History>

DisableAllMeetingReminder

Cisco Jabber for Windows および Cisco Jabber for Mac に適用されます。

ユーザーが Jabber Meetings タブにある Webex Meetings のリマインダーを受信するかどうかを指定します。

- true : リマインダーは無効です。
- false (デフォルト) : リマインダーは有効です。

DisableAudioDucking

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

オーディオダッキング機能を有効にするかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : オーディオダッキングが無効です
- false : オーディオダッキングが有効です

例 : <DisableAudioDucking>true</DisableAudioDucking>

DisableCallHistoryResolution

すべてのクライアントに適用されます。

Jabber を起動すると、Jabber は、連絡先ソースからの通話履歴にある各発信者を検索しようとします。外部電話番号からのコールのほとんどが連絡先センターにあるような展開では、これらの要求は外部の電話番号の不要なオーバーヘッドになります。大量の外部コールがある場合、これらの要求は LDAP または UDS サーバに大きな負荷をかける可能性があります。

必要に応じて、DisableCallHistoryResolution を使用してサーバーの負荷を軽減します。

- true : すべての電話番号解決リクエストをブロックします。
- false (デフォルト) : 電話番号解決リクエストを有効にします。

例 : <DisableCallHistoryResolution>true</DisableCallHistoryResolution>

DisableLocusCMR

すべてのクライアントに適用されます。

共通アイデンティティ (CI) が有効になっているときに、CMR 会議機能の会議制御を無効にすることを指定します。

- true : 会議の制御を無効にします。
- false (デフォルト) : 会議の制御を有効にします。

例 : `<DisableLocusCMR>>false</DisableLocusCMR>`

DisableNonAcceptMeetingReminder

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

未承認の Webex Meetings の場合に Cisco Jabber ポップアップ会議リマインダーを表示するかどうかを決定します。

- true : Jabber ポップアップ会議のリマインダーは、承認されていない Webex Meetings に対して表示されません。
- false (デフォルト) : Jabber ポップアップ会議のリマインダーは、未承認の Webex Meetings に対して表示されます。

例 : `<DisableNonAcceptMeetingReminder>>false</DisableNonAcceptMeetingReminder>`

DisableRemoteDesktopControl

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

IM のみの共有セッション内でリモートデスクトップ制御を有効にするかどうかを指定します。

- true : リモートデスクトップ制御を無効にします
- false (デフォルト) : リモートデスクトップ制御を有効にします

`< DisableRemoteDesktopControl >true</ DisableRemoteDesktopControl >`

DisableStartOnlineForOfflineMeeting

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Webex Meetings 以外の [会議 (Meetings)] タブに [オンラインで開始 (Start online)] ボタンを表示するかどうかを決定します。このパラメータは Webex Meetings には影響しません。

- true (デフォルト) : [オンラインで開始 (Start online)] ボタンは Webex Meetings 以外の [会議 (Meetings)] タブに表示されません。
- false : [オンラインで開始 (Start online)] ボタンは Webex Meetings 以外の [会議 (Meetings)] タブに表示されます。

例 : `<DisableStartOnlineForOfflineMeeting>>false</DisableStartOnlineForOfflineMeeting>`

DisplayScreenshotWhenSwitchApps

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがホームボタンを上からスワイプしてアプリを切り替えたときに、Jabber の汎用スクリーンショットを表示するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : ユーザーがホームボタンを上からスワイプすると、Jabber アプリケーションが表示されます。
- **false** : ユーザーがホームボタンを上からスワイプすると、Jabber の汎用スクリーンショットが表示されます。

例 : `<DisplayScreenshotWhenSwitchApps>false</DisplayScreenshotWhenSwitchApps>`

EMMType

Cisco Jabber モバイルクライアントに適用されます。

Enterprise Mobility Management (EMM) を使用する場合、EMMType を使用すると、ユーザーにサインインさせたくない Jabber モバイルクライアントをブロックできます。このパラメータを設定しない場合、Jabber はデフォルトですべてのクライアントタイプの使用を許可します。このパラメータは、許可された Jabber クライアントのセミコロン区切りリスト (1;2) を受け入れます。

- **0** : 標準の Jabber モバイルクライアントを許可します
- **1** : Intune 版 Jabber を許可します
- **2** : BlackBerry 版 Jabber を許可します

例 : `<EMMType>1;2</EMMType>`

EnableAutosave

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

前提条件 :

- ユーザーは Cisco Unified Communications Manager アカウントを持っている必要があります。
- また、Webex ([組織管理 (Org Admin)] > [ローカルアーカイブポリシー (Local Archive Policy)] を使用) または IM and Presence の Cisco Unified Communications Manager ([メッセージ (Messages)] > [設定 (Settings)] > [クライアントがインスタントメッセージの履歴をログに記録することを許可 (Allow clients to log instant message history)] を使用) サーバーでローカルアーカイブを有効にする必要があります。

ユーザーが会話を閉じるたびに自動的にインスタントメッセージを HTML ファイルに保存できるかどうかを指定します。ユーザーがサインアウトまたは Jabber をリセットしても、ファイルは保持されます。次のように、クライアントでオプションを有効にします。

- Windows : [ファイル (File)] > [オプション (Options)] > [チャット (Chats)] > [チャットセッションの自動保存 : (Autosave chat session to:)]
- Mac : [Jabber] > [設定 (Preferences)] > [チャット (Chats)] > [チャットアーカイブの保存先 : (Save chat archives to:)]
- true : チェックボックスが使用可能です。
- false (デフォルト) : チェックボックスが使用できません。

例 : <EnableAutosave>true</EnableAutosave>

以下は、Windows プラットフォームで、ユーザーが自動保存フォルダとして [ドキュメント (Documents)] (デフォルト) を選択した場合に保存された HTML ファイルの例です。

例 :

```
C:\Users\user
id\Documents\MyJabberChats\userA@domain.com\Chats\userB@domain.com\2019-04-02\userB@domain.com\2019-04-02_10-55-15.html
```

EnableConvertNumberToURI

Cisco Jabber のすべてのクライアントに適用されます。

ユーザーがチャットウィンドウで番号を入力するときに、Cisco Jabber が番号を SIP URI に変換するかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : Cisco Jabber は番号を SIP URI に変換します。
- false : Cisco Jabber は番号を SIP URI に変換しません。

例 :

```
<EnableConvertNumberToURI>false</EnableConvertNumberToURI>
```

EnableFecc

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントで遠端カメラを制御する機能を有効にするかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : 遠端カメラ制御が有効です。通話ビデオウィンドウで [遠端カメラ制御 (Far-End Camera Control)] ボタンが有効になっています。
- false : 遠端カメラ制御が無効です。エンドポイントが遠端カメラを制御できる場合でも、通話ビデオウィンドウの [遠端カメラ制御 (Far-End Camera Control)] ボタンは無効になっています。

例 : `<EnableFecc>>false</EnableFecc>`

EnableFTE

Windows 版 Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Jabber がリセットされた後、またはキャッシュがクリアされた後、ユーザーに初回利用時と同じ内容を表示するかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : リセットまたはキャッシュのクリア後の初回体験ダイアログが有効です。
- **false** : リセットまたはキャッシュのクリア後の初回体験ダイアログが無効です。

例 : `<EnableFTE>>false</EnableFTE>`

EnableInlineImages

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

インライン画像を設定して、最初にダウンロードせずにクライアントに表示することを許可または禁止します。

- **true** (デフォルト) : 画像は Jabber に自動的に表示されます。
- **false** : ユーザーが画像を受け入れる必要があるファイル転送が使用されます。

例 : `<EnableInlineImages>>false</EnableInlineImages>`

EnablePrt

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントの [ヘルプ (Help)] メニューで [問題の報告 (Report a problem)] メニュー項目を使用できるかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : [問題の報告 (Report a problem)] メニュー項目を使用できます。
- **false** : [問題の報告 (Report a problem)] メニュー項目が削除されます。

例 : `<EnablePrt>True</EnablePrt>`

このパラメータを無効にしても、ユーザーは [スタート (Start)] メニュー > **Cisco Jabber** ディレクトリまたはプログラム ファイル ディレクトリを手動で使用して、問題レポートツール (PRT) を手動で起動できます。

ユーザーが PRT を手動で作成し、このパラメータ値が **false** に設定されている場合、PRT から作成された zip ファイルにはコンテンツがありません。

EnablePrtEncryption

問題レポートの暗号化を有効にします。デスクトップクライアント用の Cisco Jabber の場合、このパラメータを PRTCertificateName パラメータで設定します。モバイルクライアント用 Cisco Jabber の場合、このパラメータを PRTCertificateUrl パラメータで設定します。

- true : Cisco Jabber クライアントによって送信される PRT ファイルは暗号化されます。
- false (デフォルト) : Cisco Jabber クライアントによって送信される PRT ファイルは暗号化されません。

PRT 暗号化では、Cisco Jabber の問題レポートを暗号化および復号化するために、公開キーまたは秘密キーのペアが必要です。詳細については、『Cisco Jabber の機能とオプション』ドキュメントの「問題レポートの復号化」セクションを参照してください。

例 : <EnablePrtEncryption>true</EnablePrtEncryption>

EnableReminderForNoneWebExMeeting

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが、Jabber Meetings タブにある Microsoft Outlook、Google カレンダー、Mac iCalendar、IBM Notes などの Webex Meetings 以外の通知を受信するかどうかを指定します。

- true : リマインダーが有効です。
- false (デフォルト) : リマインダーは無効です。

EnableSaveLogsToLocal

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザが自分の携帯電話から電子メールを送信することを許可していない場合は、PRT ログをキャプチャする方法が必要になります。ユーザが EnableSaveLogsToLocal を使用してローカルにログを保存できるようにすることができます。使用できる値は次のとおりです。

- true (デフォルト) : ユーザーが PRT ログをローカルストレージに保存することを許可します。
- false : ユーザーが PRT ログをローカルストレージに保存することを許可しません。

例 : <EnableSaveLogsToLocal>true</EnableSaveLogsToLocal>

EnableSingleNumberReach

Cisco Jabber のすべてのクライアントに適用されます。

ユーザーがシングルナンバーリーチ オプションにアクセスできるかどうかを指定します。

ユーザーは、シングルナンバーリーチが Cisco Unified Communications Manager で設定され、EnableSingleNumberReach パラメータが有効になっている場合にのみアクセスできます。

- true (デフォルト) : Cisco Unified Communications Manager でも設定されている場合、ユーザーはシングルナンバーリーチ オプションにアクセスできます。
- false : ユーザーはシングルナンバーリーチ オプションにアクセスできません。

例 :

```
<EnableSingleNumberReach>true</EnableSingleNumberReach>
```

EnableVDIFallback

このパラメータは、VDI 版 Cisco Jabber Softphone (すべてのプラットフォーム) にのみ適用されます。

JVDI エージェントが JVDI クライアントと通信できない場合に、VDI フォールバックモードを有効にするかどうかを指定します。

- true
- false (デフォルト)

例 :

```
<EnableVDIFallback>true</EnableVDIFallback>
```

EnableVDIFullScan

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

[CSCvz75206](#) 用に追加されました。このパラメータの最小バージョンは、Jabber for Windows 14.0.4 を備えた JVDI 14.0.3 です。

特定のサードパーティアプリケーションウィンドウが Jabber 会話ウィンドウに近い場合、レビュー、リモートビデオ、およびリモート共有ディスプレイが灰色で表示されることがあります。この問題が発生した場合、このパラメータを有効にすると問題が解決する可能性があります。使用できる値は次のとおりです。

- true : JVDI のフルスキャンを有効にして、ディスプレイの問題を修正します。
- false (デフォルト) : 標準の Jabber 動作を維持します。

例 : <EnableVDIFullScan>true</EnableVDIFullScan>

ForceLogoutTimerDesktop

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが Cisco Jabber デスクトップクライアントから自動的にサインアウトするまでの非アクティブ状態の時間を分単位で指定します。パラメータが設定されていない場合、クライアントは自動的にログアウトしません。

分の値は 1 ~ 480 です。

例 :

<ForceLogoutTimerDesktop>15</ForceLogoutTimerDesktop>

ForceLogoutTimerMobile

Cisco Jabber モバイルクライアントに適用されます。

ユーザーが Cisco Jabber モバイルクライアントから自動的にサインアウトするまでの非アクティブ状態の時間を分単位で指定します。パラメータが設定されていない場合、クライアントは自動的にログアウトしません。

分の値は 1 ~ 480 です。

例 :

<ForceLogoutTimerMobile>15</ForceLogoutTimerMobile>

Forgot_Password_URL

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

パスワードを忘れた場合に、パスワードをリセットまたは取得するための Web ページの URL を指定します。

ハイブリッドクラウドベース展開では、Cisco Webex 管理ツールを使用して、忘れたパスワードをリセットまたは取得するための Web ページにユーザーを誘導します。

例 :

<Forgot_Password_URL>http://http_servername/Forgot_Password_URL</Forgot_Password_URL>

GlobalPhoneServiceErrorOnMobile

Cisco Jabber モバイルクライアントに適用されます。

電話サービスが別のデバイスに登録されているときに、エラーメッセージがクライアントのどこに表示されるかを指定します。

- **true** : エラーメッセージがクライアントの上部に表示されます。この位置は常にユーザーに表示されます。
- **false** (デフォルト) - エラーメッセージが [通話 (Calls)] タブに表示されます。

例 : `<GlobalPhoneServiceErrorOnMobile>true</GlobalPhoneServiceErrorOnMobile>`



(注) このパラメータは、リリース 12.8(1) 以降で使用できます。

HideCallControlStrip

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

通話ウィンドウにコール制御ストリップを表示するかどうかを指定します。

- **enable** : コール中にコール制御ストリップを非表示にします。ユーザーには、コール制御ストリップのない会話ウィンドウが表示されます。Cisco Jabber の通話ウィンドウの上部のバーには、コール制御ストリップを表示または非表示にするオプションがあります。
- **無効 (デフォルト)** : 通話中にコール制御ストリップを表示します。

例 :

`<HideCallControlStrip>enable</HideCallControlStrip>`

IP_Mode

すべてのクライアントに適用されます。

Cisco Jabber クライアントのネットワーク IP プロトコルを指定します。

- **IPV4_Only** : Jabber は IPv4 接続のみを試みます。
- **IPV6_Only** : Jabber は IPv6 接続のみを試みます。
- **Dual_Stack** (デフォルト) : Jabber は IPv4 または IPv6 のいずれかに接続できます。

例 : `<IP_Mode>IPV4_Only</IP_Mode>`

J2JMaxBandwidthKbps

クラウド展開のみのすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

Jabber 間のコールに使用される最大帯域幅 (キロビット/秒) を指定します。帯域幅の上限を超えないように、通話のビデオ品質 (解像度) が低下します。

起動時に、Cisco Jabber は、Webex Messenger からダウンロードされた jabber-config.xml ファイルからこの設定を適用します。

- 最小値：128 kbps。これより低い値は、自動的に 128Kbps まで引き上げられます。
- 最大値：4000 kbps。これはデフォルト値です。4000 kbps を超える値は、自動的に 4000 kbps に引き下げられます。

jabber-plugin-config

Cisco Jabber のすべてのクライアントに適用されます。

HTML コンテンツを表示するカスタム埋め込みタブなどのプラグインの定義が含まれます。詳細については、『Cisco Jabber の機能とオプション』ドキュメントの「カスタム埋め込みタブの定義」セクションを参照してください。

例：

```
<jabber-plugin-config>
<browser-plugin>
<page refresh="true" preload="true">
<tooltip>Cisco</tooltip>
<icon>http://www.cisco.com/web/fw/i/logo.gif</icon>
<url>www.cisco.com</url>
</page>
</browser-plugin>
</jabber-plugin-config>
```

JabberHelpLink

Windows 版 Jabber に適用されます。

[ヘルプ (Help)] > [Cisco Jabber ヘルプ (Cisco Jabber help)] オプションを表示するかどうかを制御します。

- true (デフォルト) : [ヘルプ (Help)] メニューには、Jabber ヘルプセンターへのリンクが含まれています。
- false : [ヘルプ (Help)] メニューには、Jabber ヘルプセンターへのリンクが含まれていません。

例：<JabberHelpLink>>false</JabberHelpLink>

JawsSounds

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

連絡先の検索で結果が返されたときに、既定の Windows 通知音を鳴らすかどうかを決定します。

- **true** (デフォルト) : 連絡先の検索で結果が返されたときに、デフォルトの Windows 通知音が再生されます。
- **false** : 連絡先の検索で結果が返されても、通知音は再生されません。

MakeUsernameReadOnly

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが初めて正常にサインインした後、サインイン画面の [ユーザー名 (Username)] フィールドを読み取り専用にします。

- **true** : ユーザーが初めて正常にサインインした後、サインイン画面の [ユーザー名 (Username)] フィールドは読み取り専用になります。[ユーザー名 (Username)] フィールドを再度有効にするか、別のユーザーに切り替えるには、ユーザーは [ファイル (File)] メニューから Cisco Jabber をリセットする必要があります。
- **false** (デフォルト) : ユーザーが最初に正常にサインインした後も、サインイン画面の [ユーザー名 (Username)] フィールドは編集可能なままです。

例 : `<MakeUsernameReadOnly>true</MakeUsernameReadOnly>`

MaxNumberOfBookmarks

デスクトップクライアント版およびモバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

常設チャットルームで許容されるブックマークの最大数を指定します。許容されるブックマークの最大数は 30 です。

- **30** (デフォルト) : 最大 30 のブックマークを設定します。

例 : `<MaxNumberOfBookmarks>30</MaxNumberOfBookmarks>`

Mention_GroupChat

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

グループチャットでメンションを有効にするかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : グループチャットでのメンションを有効にします。
- **false** : グループチャットでのメンションを無効にします。

例 : `<Mention_GroupChat>>false</Mention_GroupChat>`

Mention_P2Pchat

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

一対一のチャットでメンションを有効にするかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : 一対一チャットでのメンションを有効にします。
- false : 一対一のチャットでメンションを無効にします。

例 : `<Mention_P2Pchat>>false</Mention_P2Pchat>`

Mention_PersistentChat

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

常設チャットでメンションを有効にするかどうかを指定します。

- true (デフォルト) : 常設チャットでのメンションを有効にします。
- false : 常設チャットでのメンションを無効にします。

例 : `<Mention_PersistentChat>>false</Mention_PersistentChat>`

MyJabberFilesLocation

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが会話を閉じるたびに自動的にインスタントメッセージとファイル転送が保存されるパスを定義します。チャットは **MyJabberChats** というフォルダに保存され、ファイルは **MyJabberFiles** というフォルダに保存されます。

ユーザーは、[オプション (Options)] ダイアログの [チャット (Chats)] タブでこのパラメータを設定します。ユーザーが [フォルダの変更 (Change Folder)] ボタンをクリックすると、参照ダイアログが開き、選択したフォルダへのファイルパスが **MyJabberFilesLocation** パラメータに書き込まれます。

このパラメータは、**AllowUserSelectChatsFileDirectory** パラメータが **false** に設定されている場合にのみ設定できます。

このパラメータは、次のように **AutosaveChatsLocation** パラメータと連携します。

- **AutosaveChatsLocation** パラメータと **MyJabberFilesLocation** パラメータの両方に値がある場合、**MyJabberFilesLocation** 値が優先されます。
- **MyJabberFilesLocation** パラメータに値がない場合、**AutosaveChatsLocation** 値によって **MyJabberChats** フォルダおよび **MyJabberFiles** フォルダへのパスが決まります。

- AutosaveChatsLocation パラメータと MyJabberFilesLocation パラメータの両方に値がない場合、すべてのチャットとファイルは既定の場所 ([ドキュメント (Documents)] フォルダ) に保存されます。

pChatMeeting

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

常設チャットルームで [今すぐミーティング (Meet Now)] オプションを有効にするかどうかを定義します。

- true (デフォルト) : 常設チャットルームのユーザーに対して Webex Meetings 機能が有効になります。ユーザーに [今すぐミーティング (Meet Now)] オプションが表示されます。
- false : 常設チャットルームのユーザーに対して Webex Meetings 機能が無効になっています。ユーザーに [今すぐミーティング (Meet Now)] オプションが表示されません。

例 : <pChatMeeting>>false</pChatMeeting>

ChatShare

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

常設チャットルームで画面共有機能を有効にするかどうかを定義します。

- true (デフォルト) : 常設チャットルームのユーザーに対して画面共有機能が有効になります。ユーザーには、[画面の共有 (Share screen)] オプションが表示されます。
- false : 常設チャットルームのユーザーに対して画面共有機能が無効になります。ユーザーには、[画面の共有 (Share screen)] オプションが表示されません。

例 : <pChatShare>>false</pChatShare>

Persistent_Chat_Enabled

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントで常設チャット機能を使用できるようにするかどうかを指定します。

- true : クライアントに常設チャットインターフェイスが表示されます。
- false (デフォルト) : パラメータは、構成ファイルに設定がない場合にデフォルト値に設定されます。

例 : <Persistent_Chat_Enabled>>true</Persistent_Chat_Enabled>

Persistent_Chat_Mobile_Enabled

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントで常設チャット機能を使用できるようにするかどうかを指定します。

前提条件：

この値を true に設定できるのは、Cisco Unified Communications Manager Instant Messaging and Presence サーバーのバージョンが 11.5su5 以降の場合のみです。

- true：クライアントで常設チャットを使用できます。これを設定できます。
- false（デフォルト）：クライアントで常設チャットを使用できません。

例：<Persistent_Chat_Mobile_Enabled>>false</Persistent_Chat_Mobile_Enabled>

PersistentChatTelephonyEnabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが常設チャットで会話しているときに [コール (Call)] ボタンを使用できるかどうかを指定します。

- true（デフォルト）：常設チャットの [コール (Call)] ボタンを有効にします。これにより、ユーザーはクリックして電話を開始できます。
- false：常設チャットに [コール (Call)] ボタンが表示されないため、ユーザーは会議を開始できません。

例：<PersistentChatTelephonyEnabled>>false</PersistentChatTelephonyEnabled>

PersistIMNotifications

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

新しいメッセージの IM 通知を閉じるまで画面上にとどまり、フェードアウトしません。新しい通知は古い通知の上に積み上げられます。

- true：ユーザーがメッセージを閉じるまで、メッセージは画面に表示されたままになります。ユーザーは、[通知 (Notifications)] の下の [オプション (Options)] メニューで永続的表示をオフにするオプションがあります。
- false（デフォルト）：メッセージは、閉じるまで画面に残りません。メッセージが表示され、通知がなくなり、タスクバーに Jabber アイコンが点滅するのみになるまでフェードアウトします。

PrtCertificateName

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Enterprise Trust または信頼されたルート証明機関の証明書ストア内の公開キーを持つ証明書の名前を指定します。証明書の公開キーは、Cisco Jabber の問題レポートを暗号化するために使用されます。このパラメータは、EnablePrtEncryption パラメータを使用して構成する必要があります。

例：<PrtCertificateName>Certificate_Name</PrtCertificateName>

PRTCertificateUrl

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

信頼されたルート証明書ストア内の公開キーを使用して証明書への URL を指定します。クライアントは公開キーをダウンロードし、それを使用して Cisco Jabber 問題レポートを暗号化します。EnablePrtEncryption が true で、間違った URL またはネットワークの問題が原因で証明書がダウンロードされていない場合、Cisco Jabber は PRT を送信しません。

例：<PRTCertificateUrl>http://server_name/path/Certificate_Name</PRTCertificateUrl>

PrtLogServerURL

問題レポートを送信するためのカスタム スクリプトを指定します。詳細については、『Cisco Jabber の機能とオプション』の「問題レポートの設定」セクションを参照してください。

例：<PrtLogServerURL>http://server_name:port/path/prt_script.php</PrtLogServerURL>

ResetOnLogOutOnMobile

Cisco Jabber モバイルクライアントに適用されます。

ユーザーがサインアウトしたときに Jabber が自動的にリセットを強制するかどうかを指定します。

- true : ユーザーがサインアウトすると、クライアントは自動的にリセットされます。この値を設定すると、[サインアウト (Sign Out)] ボタンが [Jabber をリセット (Reset Jabber)] に変わります。
- false (デフォルト) : サインアウトしても、クライアントは自動的にリセットされません。

例：<ResetOnLogOutOnMobile>>true</ResetOnLogOutOnMobile>



(注) このパラメータは、リリース 12.8(1) 以降で使用できます。

RestoreChatOnLogin

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが最初にサインインしたときに、[オプション (Options)] ウィンドウの [全般 (General)] タブにある [開いている会話を覚えておく (Remember my open conversations)] チェックボックスをオンにするかどうかを指定します。

- **true** : ユーザーが Cisco Jabber に初めてサインインしたときに、[開いている会話を覚えておく (Remember my open conversations)] チェックボックスがオンになっています。ユーザーがクライアントにサインインするたびに、Jabber は、サインアウトしたときに開いていたすべての一対一の会話を復元します。
- **false** (デフォルト) : ユーザーが Cisco Jabber に初めてサインインするとき、[開いている会話を覚えておく (Remember my open conversations)] チェックボックスはオンになっていません。

ユーザーは、[開いている会話を覚えておく (Remember my open conversations)] チェックボックスをオンまたはオフにすることで、いつでも初期設定を上書きできます。



(注) チャット履歴が有効になっていない場合、復元されたチャット ウィンドウは空です。

Jabber チームメッセージング モードは、開いているチャットを常に記憶します。Jabber チームメッセージングモードでは、[全般 (General)] タブに [開いている会話を覚えておく (Remember my open conversations)] チェックボックスがありません。

例 : `<RestoreChatOnLogin>false</RestoreChatOnLogin>`

SaveLogToLocal

Android 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが問題レポートをモバイルデバイスに直接保存できるかどうかを決定します。このパラメータが **true** に設定されている場合、ユーザーは問題レポートをエクスポートする2つの方法を使用できます。クライアントにレポートを空の電子メールに添付させるか、問題レポートをモバイルデバイスに直接保存します。このパラメーターが **false** に設定されている場合、ユーザーには電子メールオプションのみが表示されます。

- **true** (デフォルト) : ユーザーは問題レポートをモバイルデバイスに保存できます。
- **false** : ユーザーは問題レポートをモバイルデバイスに保存できません。

```
<SaveLogToLocal>true</SaveLogToLocal>
```

ScreenReaderShowErrors

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

スクリーンリーダーが実行されている場合、ポップアップウィンドウとして Jabber に情報提供メッセージを表示します。

- **true** (デフォルト) : スクリーンリーダーが実行されている場合、実行されていない場合にクライアントに表示されるメッセージは、代わりにスクリーンリーダーがキャプチャするためのポップアウトウィンドウとして表示されます。スクリーンリーダーが実行されていない場合、情報提供メッセージは通常どおり表示されます。
- **false** : スクリーンリーダーが実行されている場合でも、メッセージはポップアウトウィンドウに表示されません。

ShowCallAlerts

すべてのクライアントに適用されます。

着信アラート (トースト) を表示するかどうかを制御します。

- **true** (デフォルト) : アラートが表示されます。
- **false** : アラートは表示されません。

例 : `<ShowCallAlerts>false</ShowCallAlerts>`

ShowIconWhenMobile

モバイルクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーがモバイルデバイスを使用して Jabber にサインインした場合にモバイルアイコンを表示するかどうかを指定します。モバイルアイコンは、ユーザーの対応可否ステータスの横にあります。

他の位置情報の共有と同様に、モバイル ステータス アイコンはデスクトップクライアントでのみ表示されます。ShowIconWhenMobile が有効になっていて、ユーザーがデスクトップクライアントとモバイルクライアントの両方にサインインしている場合、デスクトップの場所のみが表示されます。

- **On** : モバイルアイコンが表示されます。また、クライアントでは [モバイルの場合にアイコンを表示 (Show Icon When Mobile)] オプションを使用できません。
- **Off** : モバイルアイコンは表示されません。また、クライアントでは [モバイルの場合にアイコンを表示 (Show Icon When Mobile)] オプションを使用できません。

- **Default_on** (デフォルト) : モバイルアイコンは、ユーザーがクライアントで[モバイルの場合にアイコンを表示 (Show Icon When Mobile)] オプションを有効にしている場合にのみ表示されます。ユーザーがクライアントを起動すると、デフォルトで [モバイルの場合にアイコンを表示 (Show Icon When Mobile)] オプションが有効になります。
- **Default_off** : モバイルアイコンは、ユーザーがクライアントで[モバイルの場合にアイコンを表示 (Show Icon When Mobile)] オプションを有効にしている場合にのみ表示されます。ユーザーがクライアントを起動すると、デフォルトでは、[モバイルの場合にアイコンを表示 (Show Icon When Mobile)] オプションが無効になっています。
- 空または値なし : モバイルアイコンが表示されます。

例 :

```
<ShowIconWhenMobile>Default_on</ShowIconWhenMobile>
```

ShowRecentsTab

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

Cisco Jabber のハブウィンドウの [履歴 (Recents)] タブでユーザーの通話履歴を表示または非表示にするかどうかを指定します。

- **true** (デフォルト) : [履歴 (Recents)] タブが表示されます。
- **false** : [履歴 (Recents)] タブは表示されません。

例 : `<ShowRecentsTab>false</ShowRecentsTab>`

SingleLinePhoneLabel

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

複数行の操作では、ユーザは選択リスト内の設定済みの行を選択します。選択リストには、電話番号または各行のラベルが表示されます。

回線が1つしかないユーザーの場合、回線の番号またはラベルがデフォルトで表示されるかどうかは、展開モードによって異なります。

- **電話専用モードおよび連絡先付き電話モード** : 単一の回線の番号またはラベルがデフォルトで表示されます。
- **フル UC モード** : 単一の回線の番号またはラベルがデフォルトで非表示になっています。

新しい `SingleLinePhoneLabel` パラメータを使用して、単一回線操作のデフォルトの動作をオーバーライドできます。使用できる値は次のとおりです。

- **true** : 単一の回線の番号またはラベルが表示されます。
- **false** : 単一回線の番号またはラベルは非表示です。

例 : <SingleLinePhoneLabel>true</SingleLinePhoneLabel>

spell_check_enabled

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

クライアントでスペルチェックを有効化するかどうかを指定します。スペルチェックは自動修正機能を備えており、ユーザーは推奨リストから正しい単語を選択し、その単語を辞書に追加できます。

- true : スペルチェックが有効です。
- false (デフォルト) : スペルチェックが無効です。

例 : <spell_check_enabled>true</spell_check_enabled>

spell_check_language

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーのデフォルトのスペルチェック言語を指定します。クライアントは、デフォルトのスペルチェック言語セットを使用します。クライアントが使用するデフォルト言語辞書を指定できます。

会話ウィンドウで、ユーザーはチャットの相手ごとに異なるデフォルト言語を選択できます。

例 : <spell_check_language>1031</spell_check_language> は、デフォルトのスペルチェック言語としてドイツ語を指定します。

StartCallsWithVideoOverCellular

Cisco Jabber モバイルクライアントに適用されます。

デフォルトでは、携帯電話ネットワーク経由の Jabber 通話はビデオなしで開始されます。これは、StartCallsWithVideoOverCellular パラメータで制御できます。使用できる値は次のとおりです。

- true : 携帯電話ネットワーク経由の通話は、デフォルトで「オーディオとビデオを使用 (Use audio and video) 」に設定されます。
- false (デフォルト) : 携帯電話ネットワーク経由の通話は、デフォルトで「音声のみを使用 (Use audio only) 」に設定されます。

例 : <StartCallsWithVideoOverCellular>true</StartCallsWithVideoOverCellular>

STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

クライアントで高速サインインを有効にするかどうかを指定します。

- `false` (デフォルト) : クライアントで高速サインインが有効になっています。
- `true` : クライアントで高速サインインが無効になっています。

モバイルクライアントにのみ適用される前提条件 :

- `STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED` パラメータは、`CachePasswordMobile` パラメータに依存しています。高速サインインを有効にするには、`STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED` を `false` に設定し、`CachePasswordMobile` を `true` に設定します。
- 11.8 より前のリリースで `CachePasswordMobile` パラメータを構成した場合は、リリース 11.9 で `STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED` および `CachePasswordMobile` パラメータの両方を構成して、高速サインインを有効にします。
- 11.8 より前のリリースで `CachePasswordMobile` パラメータを構成していない場合は、`STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED` パラメータのみを構成して高速サインインを有効にすることができます。

どちらのパラメータも、エンタープライズ モビリティ管理 (EMM) 経由で構成することもできます。

例 :

```
<STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED>>false</STARTUP_AUTHENTICATION_REQUIRED>
```

SwapDisplayNameOrder

すべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

特定のロケールで、`displayname` ディレクトリフィールドが空または使用できない場合に、ユーザー自身の表示名と連絡先の表示名を姓、名の形式に変更できることを指定します。

- `true` (デフォルト) : 中国語 (香港)、中国語 (中華人民共和国)、中国語 (台湾)、日本語、韓国語でユーザー自身の表示名と連絡先の表示名の形式が姓、名の形式になります。
- `false` : ユーザー自身の表示名と連絡先の表示名は名、姓の形式です。

例 : `<SwapDisplayNameOrder>>false</SwapDisplayNameOrder>`

SystemIdleDuringCalls

Windows 版 Cisco Jabber に適用されます。

ユーザーが非アクティブで、Windows コンピュータで機能が有効になっている場合に、Cisco Jabber 通話中にスクリーンセーバーまたはコンピュータのロック機能をアクティブにするかどうかを指定します。

このパラメータは、画面がすでにロックされている場合、またはスクリーンセーバーがすでにオンになっている場合の着信呼び出しの動作を制御しません。

- **true** : 通話中にスクリーンセーバーをアクティブにできます。
- **false** (デフォルト) : 通話中、またはユーザーが新しい着信アラートを受信したときに、スクリーンセーバーをアクティブにできません。通話が終了するか、新しい着信通知が受け入れられるか拒否されると、スクリーンセーバーまたは画面ロックが再び有効になります。

例 : `<SystemIdleDuringCalls>true</SystemIdleDuringCalls>`

TelephonyOnlyDiscovery

オンプレミスおよびクラウド展開モードで動作するすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

環境がフル UC モードに設定されている場合でも、一部の Cisco Jabber クライアントユーザーが電話のみのサービスにアクセスするように制限できます。

- **True** : Cisco Jabber ユーザーは電話サービスのみにアクセスできます。
- **False** (デフォルト) : Cisco Jabber ユーザーは、環境で構成されているすべてのサービスにアクセスできます。

例 :

`<TelephonyOnlyDiscovery>True</TelephonyOnlyDiscovery>`

UnreadMessageDeleteAlert

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber に適用されます。

IM プッシュ通知を有効にすると、ユーザーは、サーバーからの未開封メッセージの削除に関する通知を受信できます。通知は、メッセージキューが大きすぎる場合、またはセッション取り組みが最後に長すぎる場合に表示されます。

これらのメッセージは、UnreadMessageDeleteAlert パラメータを使用して制御できます。使用できる値は次のとおりです。

- **true** (デフォルト) : 通知が表示されます。
- **false** : 通知は表示されません。

UnreadMessageDeleteAlert パラメータによってこれらの通知が抑制されます。デフォルト値の **true** は、通知を示します。値を **false** に設定すると、これらの通知は表示されません。

例 : `<UnreadMessageDeleteAlert>false</UnreadMessageDeleteAlert>`



(注) このパラメータは、iOS13以降でAppleプッシュ通知サービスを使用する場合はサポートされません。

UpdateURL

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

HTTP サーバ上の自動更新 XML 定義ファイルへの URL を指定します。クライアントは、この URL を使用して更新 XML ファイルを取得します。詳細については、『Cisco Jabber の機能とオプション』ドキュメントの「自動更新の設定」セクションを参照してください。

例 : `<UpdateURL>http://http_servername/UpdateURL_file</UpdateURL>`

LdapAnonymousBinding

オンプレミス展開のすべての Cisco Jabber クライアントに適用されます。

ユーザーまたはサービスアカウントの代わりに匿名バインドを使用して LDAP サーバーにバインドするかどうかを指定します。

- **true** : Cisco Jabber は、LDAP サーバーへの接続時にログイン情報を使用しません。ユーザーは、[オプション (Options)] ウィンドウでディレクトリサービスのログイン情報を入力できません。
- **false** (デフォルト) : Cisco Jabber は、LDAP サーバーへの接続時にログイン情報を使用します。



(注) 構成が競合する可能性があるため、LdapAnonymousBinding パラメータを次のいずれかのパラメータと一緒に使用しないでください。

- LDAP_UseCredentialsFrom
- ConnectionUsername および ConnectionPassword

例 : `<LdapAnonymousBinding>true</LdapAnonymousBinding>`

UseSystemLanguage

Windows 版 Cisco Jabber リリース 11.1(1) 以降に適用されます。

クライアントに使用する言語を指定します。言語は、次のプロセスを使用して決定されます。

1. システムはブートストラップ ファイルをチェックします。言語がブートストラップ ファイルで (LANGUAGE パラメータを使用して) 指定されている場合、指定された言語が使用されます。
2. ブートストラップ ファイルで言語が指定されていない場合、システムは UseSystemLanguage パラメータをチェックします。
 - true : 言語はオペレーティング システムと同じ値に設定されます。
 - false (デフォルト) : クライアントはユーザーが指定した地域の言語を使用します。地域の言語は、[コントロールパネル] > [時計、言語、および地域] > [言語と地域] > [日付、時刻、または数値の形式の変更] > [形式] タブ > [形式] ドロップダウンで設定されています。

例 : `<UseSystemLanguage>true</UseSystemLanguage>`

言語がブートストラップ ファイルで指定されておらず、UseSystemLanguage パラメータが jabber-config.xml ファイルに含まれていない場合、地域の言語が使用されます。



- (注) このパラメータが TFTP サーバーの jabber-config.xml ファイルで指定されている場合、クライアントが再起動された後にのみ有効になります ([ファイル (File)] > [終了 (Exit)])。

UXModel

デスクトップクライアント版 Cisco Jabber に適用されます。

Jabber デフォルトでは、すべての導入で最新の設計になっています。ただし、オンプレミスおよび Webex Messenger の展開環境では、従来の設計がサポートされています。Jabber チーム メッセージング モードでは、最新の設計のみがサポートされています。

オンプレミスまたは Webex Messenger の展開を従来の設計で開始する場合は、UXModel パラメータを使用します。使用できる値は次のとおりです。

- modern (デフォルト) : Jabber は最新の設計で開始します。
- classic : Jabber は従来の設計で開始します。

各ユーザーは Jabber の個人設定を使用でき、このパラメータよりも優先されます。

例 : `<UXModel>modern</UXModel>`

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。